

2021年の刊行を予定する気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書。その統括執筆責任者(CLA)の1人に、キヤノングループの戦略研究所の杉山大志(大志)が選出された。排出削減策を対象とした第3作業部会報告書で、今回新たに設けられた「イノベーション」と技術開発・移転を担当する。IPCCの報告書は7年ごと刊行される。来年開かれる著者会合で目次案などをつくり、専門家や政府レビューを受け、21年7月に完

# EV、自動運転など焦点に

成する見通し。

杉山氏は第5次評価報告書でもCLAを務めており、「政策」の章を担当。環境税やトップランナー規制などを評価した。第6次評価報告書で

「イノベーション」と技術開発・移転」の取りまとめや要約を手掛ける。「新たなテクノロジー」がエネルギー需給をどう変え、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)

は、新たに設けられた

「イノベーション」と技術開発・移転」の取りまとめや要約を手掛ける。

「新たなテクノロジー」がエネルギー需給をどう変え、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)

は、運輸部門のCO<sub>2</sub>削減が「最も困難」とされた。今回は、電気自動車(EV)や自動運転にも

焦点が当たると見通し。IoT(モノのインターネット)なども進展しており、杉山氏は「一番面白いのは自分の担当する章」と話す。

これまでも様々な環境問題があったが、その対応策技術が開発され、解決につながっている。

排出にどう影響するか、ものすごく大事な問題だ」。杉山氏は今回担当する章の意義をこう語る。第5次評価報告書で

杉山氏は「地球温暖化対策も同じ。そのため舵取りを間違えないよう、有益な情報を提供したい」と意気込みを語る。

## IPCC第6次評価報告書 統括執筆責任者に杉山氏

